




令和4年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(7) 消防力・地域安全の充実	消防部長 豊田 達也
目指す姿	市民が、生命・身体・財産を火災等から守られ、安心して暮らしています	
関連する分野別計画	第3次亀山市消防力充実強化プラン	

■ SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	  
SDGs推進の考察	<p>多種多様化する救急需要に適切に応えるため、研修派遣などにより救急隊員等の知識・技術の向上を図るとともに、応急手当の普及啓発を進めた。また、広域的な災害対応の強化を図るため、津市、鈴鹿市との消防通信指令業務共同運用事業を進めるほか、近隣市との合同訓練を実施した。今後も引き続き、複雑化・多様化する災害に的確に対応できるよう取り組んでいく必要がある。</p>

■ 関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	上段: 予算額	実績・成果等
		下段: 決算額	
①	津・鈴鹿・亀山3市消防指令業務共同運用事業	276 ----- 175	国の基本指針に基づき、津・鈴鹿・亀山消防連携・協力実施計画を策定した。また、消防指令センターを共同運用するために必要な事務執行機関として、津市、鈴鹿市及び亀山市消防通信指令事務協議会を設置した。
①	一般管理費(常備消防費)	43,152 ----- 41,531	職員が使用する防火衣を更新するなど、個人装備の充実を図ると共に、救急救命士の継続的な養成をはじめ、三重県消防学校各課程に職員を派遣し、資質向上に努めた。
①	活動費	52,357 ----- 52,111	団員が使用する雨衣を更新するなど、個人装備の充実を図ったほか、災害出動をはじめ、市民への救急法指導、防火広報の実施、全国消防操法大会出場などの活動に対して、報酬等を支給した。
①	防火水槽整備事業	14,429 ----- 13,622	建築物の密集状況及び地域間のバランス等を勘案した上で、防火水槽1基を新設したことで、消防水利の充足率が向上した。
①	防災施設整備補助金	1,404 ----- 1,403	12自治会に対して、補助金を交付することで、自治会の初期消火対応力の向上につながった。
①	車両整備費(消防団車両)	10,937 ----- 10,857	消防団第1分団本町車庫の小型動力ポンプ付普通積載車1台を更新したことにより、災害出動時の迅速、的確性が増し、より充実した活動が行える体制が構築できた。
①	車両整備費	46,090 ----- 46,090	関分署の消防ポンプ自動車1台を更新したことにより、災害出動時の迅速、的確性が増し、より充実した活動が行える体制が構築できた。
④	交通安全対策事業	604 ----- 601	亀山地区交通安全協会へ40万円の財政支援を行い、交通安全運動期間を重点に、関係団体と協力し、交通事故防止に努めた。
④	防犯対策事業	31,008 ----- 29,239	防犯カメラ6台を更新し、自治会に対し防犯灯の交換・新設・管理にかかる補助を行った。(交換)194基(新設)38件(管理費補助金)201件
④	施設整備費(交通安全施設費)	23,000 ----- 22,190	ガードレール等の整備を行い、交通環境の改善を行うとともに交通事故防止と交通の円滑化が図れた。各自治会の要望の他、小中学校の通学路を対象に関係機関と連携して対応した。
④	犯罪被害者等支援事業	1,197 ----- 247	令和3年度の案件について、日常生活支援等の助成金を交付した(67千円)。また、犯罪被害者等支援制度の広報・啓発を行った。

太字: 主要事業

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	救急救命士等の有資格者の配置率	%	91.8	R3	95.9			100
2	防火対象物への立入検査件数	件	160	R3	200			260
3	交通事故死傷者数	人	65	R2	101			50人以下
4								
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	緊急時の消防・救急体制が整っている	重要度 1.59			
		満足度 0.36			
2	犯罪を防ぐ対策が整っている	重要度 1.54			
		満足度 ▲ 0.25			
3	交通安全の対策が整っている	重要度 1.48			
		満足度 ▲ 0.21			
4		重要度			
		満足度			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 消防体制の充実強化	計画的な人材育成と、指令業務共同運用に係る協議会設置のほか、消防団の装備等を更新した。災害対応力強化のため、指令業務共同運用事業等を着実に推進する。
② 防火対策の強化	住宅用火災警報器の設置促進、防火推進団体と連携した防火広報等を行うことで火災予防に取り組んだ。今後、防火対象物の立入検査数増加等で防火対策の強化を図る。
③ 救命率の向上	救急ワークステーション等へ派遣し、救急隊員の質の向上を図ったほか、救急講習を通じて応急手当の普及啓発に努めた。今後、新たな救急隊員教育について検討する。
④ 防犯・交通安全対策の推進	関係機関と連携した防犯活動、交通安全対策や犯罪被害者等支援を行った。今後も継続しつつ、防犯カメラ設置補助等の体感治安の全体的な向上に取り組む。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

消防体制の充実強化では、消防職員に必要な資格取得や資質向上を図るための研修派遣を行うとともに、消防自動車1台を更新、防火水槽1基を新設したことなどにより、災害に対応するための体制を充実させることができた。また、津市、鈴鹿市との消防指令業務共同運用のために必要な事務執行機関として、消防通信指令事務協議会を設置し、令和5年度に予定している消防指令センター整備に係る実施設計の内容等の協議を進めることができた。一方、消防団は、団員が使用する雨衣や積載車1台を更新したほか、国のモデル事業を活用した団員確保のための広報を行うなど、消防団体制の充実を図ることができた。また、新市施行後、初の全国消防操法大会出場に伴う経費等の支援を行った。防火対策の強化では、事業所等の火災を未然に防止するため計画的に立入検査を実施し、成果指標の実績値を現状値から40件増加させることができた。また、少年消防クラブの育成事業や防火広報などの実施により、防火思想の普及啓発を進めることができた。救命率の向上では、研修派遣などにより救急隊員等の知識・技術の向上を図るとともに、救急講習を通じて応急手当の普及啓発を進めることができた。防犯・交通安全対策の推進では、警察署、交通安全協会及び防犯協会等の活動を支援するとともに、連携して啓発活動に取り組んだほか、犯罪被害者等への支援を行った。一方、交通事故の死傷者数は、101件で前年より17件増加しており、更なる啓発活動が必要である。防犯対策では、関係機関と連携して行方不明者捜索を行ったほか、無人駅の防犯カメラの更新を行うとともに、HP・SNS等を活用した防犯情報の発信に取り組んだ。

A

順調に進んだ

今後の展開方針

消防体制の充実強化、防火対策の強化及び救命率の向上では、今後も第3次亀山市消防力充実強化プランに掲げる施策を着実に展開していく。特に、消防指令業務共同運用については、令和8年度の運用開始に向け、消防指令センターの整備に関する事務のほか、運用マニュアルの策定など実務レベルの検討を進める。また、成果指標である防火対象物の立入検査件数を増加させ、事業所等の防火対策の強化を図る。消防団については、分団の管轄区域の見直し等再編の検討の他、令和5年度は激甚化・頻発化する豪雨による水害等への備えとして、救命胴衣の個人配備を進める。防犯対策については、更なる防犯灯のLED化の促進や地域防犯カメラの設置への支援の検討等、地域の体感治安の向上に向けた施策の展開を図る。交通安全対策では、より活発な啓発運動を関係機関と連携して展開する必要がある。